



2016
9/1
No.1162

広報 長岡京

とったぞ！ 全国2位！！

若葉カップで市スポーツ少年団が準優勝

第32回若葉カップ全国小学生バドミントン大会で、全国から集まった男女各48チームの中、市バドミントンスポーツ少年団が大活躍。巧みなプレーとチームワークで勝利を重ね、男子は見事準優勝。メダルと笑顔がキラリと輝きます。女子もベスト16入りという好成績を収めました。本当におめでとう！！ (8月1日、西山公園体育館で)

*市バドミントンスポーツ少年団の高橋監督のインタビューも。詳しくは裏表紙で。

まちの姿

● 7月 出生71人・死亡49人 / 救急車の出動 248回 / 家庭から出たごみ1294.54トン(前年同月 1332.38トン) / 平均気温27.5℃ (27.0℃)
● 8月1日現在 人口 80,737人・世帯数 35,478世帯 / 65才以上 20,822人 ● 6月 交通事故13件(同17件)



第32回若葉カップ全国小学生 バドミントン大会 準優勝 長岡京市バドミントン スポーツ少年団(男子)

いつの時代も、どこであっても、子どもたちの笑顔と夢は「宝物」です。長岡京市バドミントンスポーツ少年団の男子チームが、7月29日から8月1日まで西山公園体育館で開かれた第32回若葉カップ全国小学生バドミントン大会で、初の準優勝と大健闘。指導陣が新しい強化練習を取り入れ、選手たちが熱心に取り組んだ成果でした。

大会は1988(昭和63)年の京都国体・バドミントンが西山公園体育館で開かれたことがきっかけで始まりました。長岡京市の男女チームは「開催地枠」として毎年出場しています。日ごろは毎週



トレーニングメニューを改善して挑んだ大会で、見事好成績を収め、笑顔の市スポーツ少年団。

将来に向かい、若葉大きく育て

2回の定期練習を続けてきましたが、今年度からは、毎月1回、朝から夕方までの「1日練習」もしています。しかも、近畿圏や福井、愛知、岐阜などからチームを招き、試合をしてプレーに磨きをかけました。また、定期練習では立命館大学のバドミントン部員が子どもたちの指導してくれるようになりました。

若葉カップでは、日本バドミントン協会U-13(13歳以下)強化指定選手の衣川真生(きぬがわまこと)主将を軸にシングルスだけでなくダブルスも強化し、チームワークもバッチリでした。予選リーグ初戦で実力を出せて、高橋光雅監督は「選手たちが(勢いに)のりましたね」と、頼もしく見守りました。予選リーグから決勝トーナメント準決勝までの5試合を危なげなく勝ち進み、決勝では惜しくも敗れましたが、最後まで元気なプレーを見せてくれました。また、第27・28回大会連続3位だった同少年団女子チームは、今回も予選リーグを突破しました。

実は、今夏のリオ五輪バドミントン日本代表9人中、なんと7人が若葉カップの出場経験があります。高橋監督は「少年団で基礎技術と頑張れる心を養ってあげたい。将来、大きく育てられれば」と、楽しみにしています。